- A11** インドネシア南スラウェシ都市部の下水溝におけるネッタイイエカの分布
 砂原俊彦[○]・茂木幹義（佐賀医科大学微生物学教室）、
 Makmur Selomo（ハサヌディン大学公衆衛生学部）
 Distribution of *Culex quinquefasciatus* immatures in urban ditches in
 South Sulawesi, Indonesia
 Sunahara, T., Mogi, M. and Selomo, M.

スラウェシ島の都市ウジュンパンダンでは、下水溝がネッタイイエカの主要な発生源となっている。私たちは、本種の生息密度に影響する要因を検討するために、1996年9、10月に調査を行なった。6本の下水溝沿いに5mの間隔で長さ1mの区画を50個設定し、水流の有無、ゴミなどの浮遊物による水面の被度、魚（グッピー）の有無を記録した後、90mlの柄杓で各区画の四隅から1回ずつ幼虫および蛹を採集した。解析の結果、次のことが示された。ネッタイイエカの密度は、民家からの生活排水の流入があり、かつ浮遊物が多く水流が停滞した場所で高く、生活排水の影響を受けない場所や、流れの良好な場所では低かった。また、魚は生活排水の流入しない場所に集中しており、魚による蚊の発生のコントロールは部分的にしか機能していないと考えられた。

- A12** 棚田と平野部水田における蚊幼虫発生様相の違い
 高木正洋[○]・津田良夫・C. Mwandawiro・浦川恵美子（長崎大・熱研生物環境）、
 杉山 章（名古屋女大 短期大学部）
 Mosquito larva occurrence in terrace and flat type rice fields
 Takagi, M., Tsuda, Y., Mwandawiro, C., Urakawa, E.
 and Sugiyama, A.

水田性蚊類の発生様相は、水田の性状や稲作の管理形態の影響を受ける。1996年5～10月にかけて、佐賀県西有田町の棚田と平野部の水田において、蚊幼虫と主な捕食性昆虫の発生様相、水田水の性状、稲作暦、稲の生長度合い等を定期調査した。シナハマダラカ (*An. sinensis*) と捕食性昆虫類の密度に差はなかったが、コガタアカイエカ (*Cx. tritaeniorhynchus*) は平野部の方が多かった。水の性状、稲の草丈にも差異が見いだされた。稲作と疾病媒介蚊発生との関係について考える。